

令和4年5月25日

農業総合センター専門技術指導員室

降ひょう後の技術対策について

令和4年5月23日、県央および県南地域において局地的に降ひょうがあり、一部のナシ園で被害が発生しました。ナシの生育ステージは幼果期であり、今後は果実の被害程度を観察しながら、下記の内容を参考に適切な技術指導を行ってください。

ナシの対策

1 丁寧な摘果で良果を残す

- ・果実の傷の程度を確認しながら段階的に実施し、軽微な傷であれば回復が期待できるため、早急な摘果は避ける。
- ・摘果は被害面、上面をよく確認しながら丁寧に実施する。
- ・果実肥大の良好な果実ほど治癒しやすい。
- ・果軸の損傷はコルク化し、軸折れの原因となりやすい（特に豊水）ので注意する。
- ・着果が不足する園地では、被害程度にかかわらず着果させて、結実量の確保に努める。

2 樹体管理

- ・果そう葉、新梢葉が損傷を受けており、樹体への影響も大きいので、今後の生育を観察する。
- ・太い枝の損傷部分は、塗布剤により保護する。
- ・主枝、垂主枝、予備枝先端の新梢を欠損した場合、新たな新梢発生・伸長を待ち、育成する。
- ・予備枝や新梢誘引を行い、花芽着生を促す（6月下旬～7月上旬）
- ・葉面積の確保のため、枝や新梢の切り戻しはしない。
- ・降ひょう害によって著しく着果不良となった園においても、花芽着生が劣ることはあまりない。

3 薬剤散布の実施

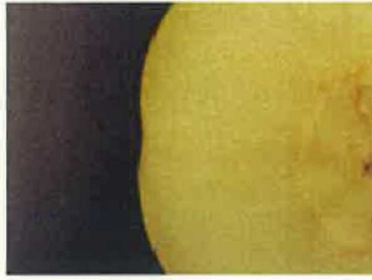
- ・基本的には参考防除例に準じて実施するが、殺菌剤では胴枯病など広範囲に効果のある薬剤を選択する（黒星病、胴枯病、アブラムシ類等の発生に注意する）。
- ・来年以降の生育のためにも、参考防除例どおりの防除を続ける。

4 その他

- ・生産組織やJAと連携し、実態調査を繰り返して収量及び品質の予測を立て、出荷対策の検討に役立てる。

5 参考資料

- ・過去の降ひょう害果実の追跡調査
- ・平成 18 年 4 月 25 日降ひょうによるナシ「幸水」傷果の追跡調査（場所：笠間市泉）

	表面のキズ	浅いへこみ	深いへこみ
5 月 15 日			
6 月 13 日			
8 月 25 日			
	 果肉異常なし	 不明瞭なスジ	 明瞭なスジ